

イマヌエル教報

2016.

1

1947年7月1日第三種郵便物認可 2016年1月5日（毎月5日発行）

イマヌエル綜合伝道団

No.834

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

ペテロの驚き！ 主の驚き！

教団代表 藤本 満



「あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。」

（ペテロの手紙第一 一章8節）

ペテロは、驚きと感動をもってこの言葉を記したに違いありません。

ペテロには、実体験としてわかっていました。神の御子がこの世界を救うために人となって、卑しい乙女マリヤに宿り、ベツレヘムに生まれたことの意味。神の子イエスが、ガリラヤの湖で、数々の奇跡を行い、死んだ少女をよみがえらせ、男性だけで五千人もの人々の空腹を、わずかなパンと魚で満たした事実。

しかし、ペテロが宣教のために小アジアへと出て行ったとき、心の隅に疑問があったはずで、世界の果てで、「そんな奇跡をたれが信じるのだろうか？」

自分がどんなに説教に熟達しても、どんなにいのちをかけても、人は信じてくれるものだろうか？

それだけではありません。そのイエスが無力にも引き渡されて十字架にはりつけになりました。そんなイエスをだれが救い主として信じるだろうか。ペテロも、ヨハネも見たのです。墓が空っぽであったことを。果然としている中、よみがえりの主が現れて、「平安があなたがたにあるように」とおっしゃった事実を。でも、そんな話をだれが信じるでしょうか？

ところが、これがペテロの驚きです。ペテロは、この手紙を、ポント、ガラテヤ、カッパドキア、アジア、ビテニヤという、おおよそエルサレムから見たら、世界の果てにあって、そこに「散って寄留している」（1節）キリスト者に宛てて記しています。日本も入っているでしょう。

彼らは見たこともないイエスを愛し、信じ、いやそれだけでなく、さまざまな試練の中で悲しみつつも、「大いに喜んでいる」（6節）のです。それは、「たましいの救いを得ているからです」（9節）。

私たちは、今年もまた神が備えてくださる馳せ場を走ります。「多くの証人たちが雲のように私たちを取り巻いて」（ヘブル12:1）、応援しています。多くの証人たちの中には、ペテロがいます。私たちの信仰の先輩方、すでに天に召された信仰の家族がいます。

彼らは、かつて教会を開拓し、育て、私たちのために祈り、私たちと共に主にあつて労した人々たちです。

ペテロは驚きます。そして雲のように私たちを応援している信仰者も驚きます。いや、主イエスもまた驚いてくださいます。この世の真ん中で、世界の果てで「散って寄留している」ような私たちが、イエスを見たこともないのに愛しており、救いを得て、試練の中であつても喜んでいることを。忍耐をもってこの信仰生涯を走り抜く私たちを。そしてさらに応援を増し加えてくれます。主は驚きつつ祝福してくださいます。

目次

- ペテロの驚き！ 主の驚き！…藤本 満……1
- 局長・新年の展望と期待、日本伝道会議……2
- 富士見台教会献堂式の報告……3
- YSBの報告、加藤一男師追憶……4
- 創立70周年考察と提言、読書のひろば……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

期待と展望

労苦の実に感謝しつつ



総務局長
北田 直人

「ほかの人々が労苦して、あなたがたはその労苦の実を得ているのです。」(ヨハネ四・38)

「他の人が労苦した実を得ている」ということは宣教の働きだけでなく、教団のさまざまな働きにおいてもそうです。一番最初の人には労苦ばかりであっても、その後の人はその労苦の実に助けられます。しかし後に続く人はただ受けるだけではなく、新たな労苦もして、後に続く人を助けることになってきたのだと思います。

教団が存続する限り総務局の働きも続き、これまでなされてきた労苦に助けられつつ、また新たな労苦をしていくことになろうと思います。局長が託された務めをより良く果たしていけるようお祈りください。

ローマの教会には、「非常に労苦した」マリヤやペルシスがいました(ローマ一六・6、12)。それぞれの教会のマリヤやペルシスの故に感謝しつつ、労苦の一端を担う人々によって、主の働きが進する年となりますように。

期待と展望

主の備えを堅く信じ



国内教会局長
内山 勝

「イサク。神ご自身が備えてくださるのだ」(創世記二二・8)

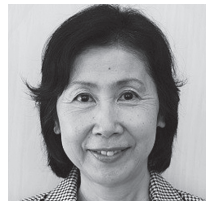
■ 昨年は、4人の現職牧師を天国に送りました。今年の年会では、4名の牧師が引退されます。他方、神学院を卒業して牧師に加えられる方は3名です。闘病中の牧師方のために持続ください。常駐牧師不在の教会には、何とか牧師を派遣したく願っております。

■ 結婚サポートシステムのアンケートにご協力をいただきありがとうございます。約60教会から応募があり、89%の継続希望がありました。改善をして年会で提案できるようにします。また、84%の要望があった「結婚セミナー」については、秋実施をめざして準備を開始しています。結婚に導かれる方々が起こされますように。

八方塞がりの現実を直視しつつも、だからこそ、主ご自身の備えを堅く信じて、進んでいく所存です。共に主を仰ぎましょう。

期待と展望

次代を視野に入れて



世界宣教局長
梅田 登志枝

「多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。」(IIテモテ二章2節)

今年にはポリビア派遣の三森邦夫、加寿子宣教師ご夫妻が、インドから始まる45年余りに亘る宣教師活動を締めくくり、本帰国を予定しております。宣教の働きにおいても世代交代は避けられません。

パウロは後継者テモテに福音を伝えることのできる人々に、働きをゆだねなさいと語りました。私たちは宣教師たちを送り続ける教団でありたいと祈ります。と同時に、いま派遣されている宣教師たちが、遣わされた地で一人のテモテを見出すことで、次の世代へと福音が手渡されていく、という宣教の働きも重要です。今の働きが、明日の現地教会の忠実なリーダー、牧師、宣教師たちへとゆだねられていくことを夢見ながら、今年も宣教の働きは続きます。お祈りください。

「機会を十分に生かして用いなさい」(エペソ五・16)

期待と展望

機会を生かして



教育局長
林 正弘

教育局は、各部の営みが、それぞれの担当者の尽力とそれに参加される方々によって進められています。新しい年に新しい恵みが加えられることを期待しています。

教育部では今年、全国の信徒方に学びの機会を提供すべく、信徒向けのeラーニング講座を開始します。聖書、神学、実際問題などのテーマで順次開講します。第一回はすぐに始まります。お見逃しなさいませぬように。

これまでと同様、牧師や信徒伝道者向けの講座も開講されます。神学院卒業後数年の牧師を対象とした学びの機会を、昨年に続いて設けます。信徒伝道者養成課程のスクーリングは、新たな参加者を迎えることを想定して祝日を含む日程で計画しています。

夏には、第5回ユース・ステーション全国大会と中高生キャンプ「とにキャン」が開催されます。教育局各部の営みを覚えて、お祈りとご参加をお願い致します。

第6回日本伝道会議

9月28日〜30日、神戸で開催

日本宣教のために
私たちに何ができるか

神戸教会 岩上祝仁

第6回日本伝道会議は今年の9月28日(火)〜30日(木)の4日間、神戸コンベンション・センターをメイン会場として開催されます。前回の札幌伝道会議から7年、「協働」に取り組み、その結実としての伝道会議です。今回のテーマは「Revision」です。もう一度、主から与えられている福音の価値を問い直し、その福音に基づいた教会の宣教のあり方を見つめ直すとする営みです。

主講師に『神の宣教』の著者クリストファー・ライト博士を迎えます。すでに先生との間で講演の下準備が進められています。「日本の教会はあらゆる手を尽くして福音宣教に長年取り組んで来た、その結果が1%のクリスチャン人口であるとき、そのような私たちに何ができるといえるのか？」このような質問に答えていただく形で、講演をお願いしています。そして、先生からの講演を受けて4日間、同じグループでのディスカッションと交わりを通して、福音の「協働体」としてのネットワークづくりを目指します。さらに、そのネットワークが、

献堂式

富士見台教会



主が建てて下さった新会堂

野田 禎

「私たちは夢を見ている者のようであった。」(詩篇一二六・1)

▼建築に至る経緯

富士見台教会は築60年となり、2011年に会堂委員会を立ち上げ、祈り始めました。その年の3月に旧会堂は東日本大震災のために、教会堂の塔と屋根の接続部分がずれ、雨もりがするようになり、修理をしました。

教会の基礎土台のひび割れ、壁のひび割れ、礼拝堂の梁接合部のはずれなど、老朽化も深刻である分、専門家により、同じくらの地震が再び来たら、部分倒壊から始まって甚大な被害が起こるとの診断を受けました。できるだけ早く耐震性に優れた新会堂が必要でしたが、経済的には新会堂建築予想費用に対し3割程の備えでした。

2014年の教会総会で、時が満ち、具体的に会堂建築に踏み出すことが決議されました。

神様は、ローマ二章一節のみことばをもって励まし、導いて下さいました。坂道を行くときは御手を差し伸べて下さいました。



「主は生きておられます。」



4月5日に定礎式、工事が着々と進められていきました。豊かな木材を使った会堂が8月上旬に完成しました。
9月6日の礼拝から新会堂での礼拝、第1回目の聖餐式をもちました。10月11日には2名が洗礼の恵みに与り感謝でした。

▼新会堂について

木造2階建て
床面積 1階 164・06㎡
2階 99・37㎡

延べ床面積 263・43㎡
敷地面積 329・09㎡

▼献堂式について

11月23日(月・祝日)に教団代表・藤本満先生の司式で、多くの方々のご出席を頂きました。この日のために教会員が心をひとつにして準備をしてきました。

「救い主イエス」との讃美で式は始まり、「坂道に強き御手を差し伸べ」まさにアーメンでした。

教会コワイヤによって、「栄光溢れるシオンの町は」の賛美が終わると教会員が壇上上がり、主に会堂をお献げしました。

代表より、「1ペテロ二章4節、6節より「生ける石として霊の家に築き上げられなさい」との幸いなメッセージを頂きました。

その後、建築に携わって下さった方々に記念品の贈呈が行われました。また、河村襄先生、北田節男先生、北田直人先生より祝辞がありました。

合計の出席者は150名ほどでした。愛餐をともにしながら、マクラケン先生時代から現在までの富士見台教会にゆかりのある先生方からお言葉や賛美を頂き、教会の歴史を思い返す幸いな時となりました。全国の教会の皆さま、祈りのネットワークで祈ってください。心より感謝申し上げます。

効果的に機能する枠組みとして、プロジェクトや分科会を準備して、具体的な宣教の働きを取り組みへと進めます。今回の伝道会議は、プログラム中心ではありません。神のみこころを求め、実行に移そうとする、「神の人」が中心の営みです。何か大々的なイベントを行って終わる伝道会議ではなく、文字通り人が集まり、主の前に祈り求め、主の働きに取り組むことを決議して、立ち上がって行くための会議です。

主の力にもう一度目を向け、主のために献身し、そして、主の宣教の働きを共に戦い始めるための会議です。この会議に必要なものは「神の人」です。全国のイムヌエル先生方・信徒の方々が集われ、主の働きに参加して下さい。情報はお願ひします。

信徒向けの「聖書学校」がオンラインで始まります

「信徒向けeラーニング講座」2016年2月開講
▶講師：藤本 満「イエスのたとえ話」
▶期間：8週間 ▶受講料：8千円

信徒向けのeラーニングが始まります。藤本満先生が、ハツとするような角度から、色々とお話させていただきます。テキストは聖書のみです。

所属教会の牧師の承認を得てお申し込みください。お申し込みは <http://grace-online.jp/> お問い合わせは elarning1308@gmail.com

YSBリトリート報告 「めんどくさい」と、 どうつき合う？



久留米教会 吉村和記

昨年(2015年)に続き、第二回目のYSB(社会人ユース・ステーション)リトリートが11月22日(日)、23日(月・祝日)、中目黒教会で開催されました。中目黒教会は会場だけでなく、音響システムなど必要な機材を提供して下さり、その上、姉妹方のご愛労により約60名分の昼食をご用意して下さいました。改めて感謝致します。

▼リトリートのテーマ
今回のリトリートでは、「めんどくさい」と、どうつき合う?」がテーマに掲げられました。

▼コンセプトに沿ったプログラム
YSBのコンセプトは「30代から40代を対象に聖書の学びと交流を深めながら、神の招きに応える場」となっています。

まず「聖書の学び」としては、一日目の夜に葛田聡毅先生が「コリント一五・58を通して、二日目午後は河村健彦先生がモーセの生涯を通して、テーマに則したメッセージを語ってくださいました。



特に、メッセージの中で語られた「YSB世代は、これまでの10代、20代で描いてきた理想や頑張り、地図を、現実味ある柔軟性をもった地図に書き換えられる時期ではないか。」との言葉が共感を得たようでした。

▼コンセプトにある「交流」としては、二日目午前にシンポジウムが行われました。実行委員の4名がまず「私のめんどくさい」の実例をシェアし、それを聞いて共感した参加者がさらに自分の体験を分かち合うというスタイルで進められました。内容は、恋愛、結婚、職場での人間関係、子育てと多岐にわたりましたが、それらからは、一人が抱えていた悩みではなく、同世代が同じように壁にぶつかっているも戦っていた課題でした。さらに続けてもたれた小グループでの分かち合いでも深

い話は続き、テーマがテーマだけに、当初は単なる愚痴や苦勞話で終わってしまったかわりかとの心配もありましたが、そこは信仰者同士、互いの話をしっかりと聞いて受け留め、最後には祈り合っている光景を見ることができて感謝でした。

▼聖と宣を、今の時代に
YSも、YSBも、このことをスローガンにして開催されています。振り返って考えてみますと、今回の「めんどくさい」と、どうつき合う?」とのテーマも、日常で頻りに遭遇する面倒な問題にどのように信仰をもって臨んでいくかという極めて実践的な「聖」に関わるテーマだったと思えます。参加者が経験した温かい交わりと深められた理解が、今後、いよいよ「宣」へと繋がっていくことを期待しています。

読書の

ひろば



ポスト近代の聖書信仰とは

聖書信仰

藤本 満著

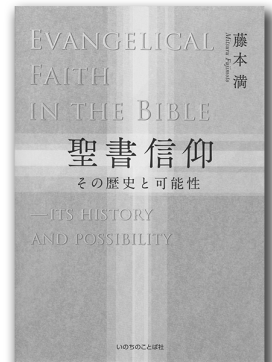
いのちのことは社刊

出版事業部扱い

定価二、八〇〇円

「聖書は誤りのない神の言葉」これは、日本のすべての福音派の教会が使っている標語です。私たちはこの告白にアメンとうなずきます。では、私たちの聖書信仰とは一体、実質的に何を意味しているのでしょうか。

この度、藤本満先生が『聖書信仰』を出版してくださいました。私たちは「聖書信仰」をどのような流れで受け継いできたのか、そしてこれからの聖書信仰とはどのような可能性と広がりをもっているのかを緻密かつ大胆に執筆してくださいました。まさに日本の福



音派教会にとって画期的な、歴史に残る一書です。

読みながら心が躍るような思いでした。私自身、パウロ研究に取り組み過程で、批評学とこれまで聞いてきた聖書信仰の中で練られるながら、「私の聖書信仰とは何なのか」という命題に直面してきたからです。私の周囲にいる聖書学、神学ご専門の先生方も本書を高く評価しておられます。

藤本先生はプロテスタント教会の歴史とその思想を軸としながら、「神のことはである聖書」を教会どのように受け取ってきたのか、特にそれぞれの時代にあった思想や神学的課題の中でクリスチャンが、聖書信仰をどのように表現したのか、実に多彩かつ見事に描いておられます。その流れは大変複雑で入りこんでいるので、情報量も大変多くなっています。それは、私たちの「聖書信仰」がどれほど幅広く、豊かな世界であるのかの裏返しでもあるのです。

藤本先生が述べておられるように、この本は「聖書信仰」を定義付けて、境界線をはっきりするよう内容ではありませぬ。むしろ、その豊かさの可能性を見せてくれています。その広がりにも同意する必要はないでしょう。しかし排他的な態度で内にこもるのもまた違うと思います。本書は、聖書信仰を真剣に問い、その先の希望を私たちに見せてくれています。*キンドル版(上下)も同時に発売されています。(岩上敬人)

教団創立70周年 青年大会を振り返り

全国アンケートの考察と提言5

信仰者としての家庭形成 結婚をどう捉えるか

記念事業委員 馬場 満子

「共に神様を見上げて祈りあえる家庭を築いていきたいと願っている」ということではないでしょうか。

(1)の夫もしくは妻がクリスチャンでない場合、毎週日曜日に教会に集うこと等、信仰生活の面で色々な苦労があるかもしれません。そのような中で信仰を守っている兄弟には、伴侶者及び家族の救いを信じて、教会全体で共に祈り、また暖かく受け入れるお互いでありたいものです。

(2)のこれから結婚を考える方々の中には、「クリスチャンが少ないし、クリスチャンと結婚しなればいけないのか……」という現実の難しさや疑問を訴える意見が幾つかありました。このような意見の背景には、クリスチャンの未婚男女が(実際は結構な人数がいるにもかかわらず)出会う機会がなかなか無いという現実があります。同時に、聖書的結婚観を若いうちからしっかりと学ぶ場も少なかったように思います。

最近では「とにかくヤ」や「YS」で、世の中とは全く違う価値観で、性の問題を取り上げて青年たちが学ぶことのできる機会も増えてきました。しかし、今以上に、若い頃から結婚についての信仰的な理解を培う機会を作っていく必要があるのではないのでしょうか。なぜなら、主の定められた本来の結婚や男女の関係とは乖離した情報が巷に氾濫している現代、根柢の

ある正しい知識と理解は若者に不可欠だからです。

(3)の、もっと現実的に結婚を願っておられる方々のためには、全国の牧師方のご理解とご協力を仰ぎながら、具体的な学びと出会いの場が提供できないか、国内教会局のサポートをいただきつつ検討中です。

最後に、アンケートでは、若い方々が祝福された結婚ができるようにと祈り、重荷をもつてくださっている中高年の方々も多くいらっしゃるのことが見受けられました。祈りをもってクリスチャンホームを築きあげてこられた諸先輩方の幸いな家庭、麗しいご夫婦の姿を青年たちは見えています。

クリスチャンの伴侶者を主が与えてくださった経緯、どのように祈ったか、結婚までの導きの中で主に語っていただいたこと、お互いの会話等、クリスチャンホームには、それぞれのご家庭や個人に貴重なお証しがあるのではないのでしょうか。時代が変わり状況が違っても、基本は今も昔も変わらず、自分本位の願いではなく、主の御心を求め、お従いして行く信仰に、主は祝福をもってくださる……その証しを伝えていく事の大切さをアンケートを通して痛感しています。



追憶

故加藤一男先生

2015年11月20日ご召天(享年67歳)

加藤一男先生は、1948年(昭和23年)7月1日、山形県において誕生。まもなくご家族が秋田へ移られ、お父様が幼少時に病死された関係で、お母様の手で大切に育てられました。

キリスト教との出会いは、高校生時代。インマヌエルの創設期で、全国に果敢な開拓伝道が行われ、秋田もその一つでした。叔母の大滝昭子牧師が帰郷の折に甥の一男先生に伝道しておられました。開拓準備のために大滝師を助け、ご自身も開拓特伝で救われ、1964年12月22日、クリスマス礼拝の日、インマヌエル秋田教会の第1号受洗者として洗礼を受けられました。

が、20歳の時、オートバイの事故により右手の自由を失われます。しかし、この事故をきっかけに信仰が確立し、卒業後に召命を受けて献身、第25期生として聖宣神学院に入学。卒業後、同期の光先生と結婚され、初任地・函館で5年間、開拓伝道に従事。1981年から愛知県豊田教会へ異動、以来22年間、心血を注いで奉仕され、多くの受救者・献身者が興され、会堂建設の戦いをも乗り越えて教会が成長します。ご自身が障害を持つ身として、様々な弱さを持つ方々に特に重荷を持って仕える働きを展開されました。

1996年頃から、難聴、腎臓病、脊髄小脳変性症など次々と発病。肉体のとげを抱えつつも、ご夫人の光先生の献身的な支えを受けつつ、なおもご奉仕を継続されましたが、2003年には神学院教会へ転任、その後2010年には伝道職を退いて引退教師となられました。ここ数年は施設で介護を受ける日々を過ごされ、去る11月20日、ご家族に看取られながら、御国に凱旋されました(67歳)。



生涯を支えた聖句は、ピリピ二章20節でした。(小川宣嗣記)

巻頭言

マケドニアからの招き



世界宣教局
梅田 昇

第20次教団総会、第70次年会、アラムナイセミナー、日本聖化協力会30周年記念大会を含んだ昨年を越えて、新しい年を迎えました。私たちの目はどこに向けられて



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

いるでしょうか。聖書の聖化の宣証と福音宣教という創群の使命を与えてくださった神様ご自身にしっかりと信仰の目を向けて歩ませていただきたいものです。今年も、困難を乗り越えて世界宣教の働きは主の恵みによって継続されます。

宣教者パウロは、第二次宣教旅行の途次、アジアでみことばを語ることを禁じられ、ムシアに来た時に、ピテニアに行こうとしたのですが、御霊に禁じられ、トロアスに下って行ったときに、一人のマケドニア人に会い、「マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください」という招きの声を聞いたのです。パウロは、神様が招いておられると確信して、船でマケドニアに向かったのです。思いが

台湾宣教へのお招き



けない形で主の福音がアジアからヨーロッパ世界に拡大することになったのです。自分の計画や考えに固執しないで、主の招きに応じる時に、主は大いなる御業を行ってください。

昨年末に全国の教会に案内が送られました。平瀬義樹、光世宣教師が奉仕をしている台湾宣教へのお招きです。先生方、信徒の方々の積極的な参加を期待しています。

- ◆教会、家族、教区で小さなグループを作り、台湾の台中教会を訪問し、日本語で証しや説教可能
- ◆世界宣教局で六月、十月頃チームを編成して派遣
- ◆日程は金から火まで、台北、台中、台南などの観光も希望に応じて可能
- ◆費用は、十万から十二万円
- ◆詳細は所属教会の牧師にお尋ねください、不明な点、申し込みは神栖教会葛田敬子師まで



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2015年12月7日

「恐れないうで、語り続けなさい。黙つてはいけません。わたしがあなたとともにいるのだ。……この町には、わたしの民がたくさんいるから。」

(使徒の働き一八章9-10節)

主の御名を讃美します。いつも背後にありまして尊いお祈りと温かいご支援をありがとうございます。こちら台湾でも、この冬最初の寒波がやって来ましたが、前日までの夏の陽気から一転、気温が14度まで下がり、その気温差はゆうに20度前後です。あまりの激変に庭の草花もついていけず、満開だった花がいつきに落ちました。天気予報によると、この気温は平年並みということで、これまでは温かすぎたということのようです。温かすぎたという冷え込み、身も心もついていけません。教会でも年配の愛兄弟方や幼子を抱えたご家庭が集会出现を家族から止められるケースが頻発しています。宣教聖日には、全国教会と共に、

今年も宣教礼拝を守ることができました。この朝は、特に日本の全国教会からの篤い祈りと支援の手を覚えつつ、私たちもその祈りに加わることができる特別な機会、まさに祈り祈られるという信仰者の恵みのチェーンを体感する時です。宣教DVDを見ながら各地の主の働きを見、そこに自分たちも映っていることに思わず照れ笑いする人、微笑する人、顔を見合わせる人、どこことなく誇らしい顔をする人など、その反応は様々です。又お祈りの課題を使い、一つ一つの宣教地と宣教師の顔を確認しながら、祈りの手を挙げました。今年、コイン献金の説明が丁寧に行われていたので、あつという間にラベルがなくなりました。私たちは宣教メッセージに大きな感動と力、励ましを受けました。

台湾での働きも16年目に入り、良い意味での慣れと適応、課題とされる、新鮮な視点で事物を見ることが少なくなった自分たちの姿に神様からの光を受けました。台湾の国情や治安、経済情勢、人々の心の目まぐるしい変化、それに否応なしに影響される台中の邦人社会の動向(特に経済)、教会メンバーの激しい流動的な動き(増減)、異国の地で子女教育をすることの困難とプレッシャーなど、葛藤やジレンマ、焦りのようなものを感じていましたが、「恐れないうで、語り続けなさい。黙つてはいけません。わたしがあなたとともにいるのだ。……この町には、わ

たしの民がたくさんいるから」と力強く、みことばの約束を与えて励まして下さいました。

翌週、礼拝後、数年前に家族で北部に行かれた姉妹を励まそうとの有志の姉妹方の提案を受け、みんなで激励の寄せ書き作りをしました。クリスマスの音楽練習も有志の兄弟の申し出によりスタートしました。

11月29日には、アドベント礼拝(二回目)を守り、今年も、「ことばは人となって」のヨハネの福音書からの思い巡らしシリーズです。クリスマス特集も13日の台南日本語集会からスタートします。引き続き、お祈りとご支援をよろしくお願ひします。

【トピック報告】

◆南部を中心にした Dengue 熱の流行は、沈静化に向かいつつあります。感謝。

◆来春1月16日の総統、立法議員の半数が同時改選に向け、与野党の激しい選挙戦が繰り広げられています。野党優勢が報じられる中、平和裡に、選挙が実施され、政情や治安の安定が保たれますよう、お祈りください。

◆来年の宣教訪問団の受け入れに向け、準備が進められています。どのような出会い、主にある交わりが許されるでしょうか? この年末年始の日本からの海外旅行先がハワイを抜いて、いちばんになつたそうです。ぜひ来て、見て体験してください! ■



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2015年12月5日

「私のはかりごとは成就し、私の望むことを全て成し遂げる。」

(イザヤ四六章10節)

先回のカンボジアの報告は9月でした。私の派遣も延期から延期の状態、あたかも外面的には何の前進もないかのような、まさに「不退転の信仰」を訓練された日々でしたが、冒頭の聖句の如く、10月の始め突然WGMが一組の宣教師テトス牧師御一家をカンボジアに派遣するかどうかを検討中との朗報が入り、ザークル先生と共にフィールドの情報や意見の交換の時を持ちました。テトス牧師御夫妻は御主人がクメール人、夫人は元米国W教会の派遣宣教師として主に翻訳や出版関係の働きをしておられた方です。

初めにそのお話しが私の耳に入りました時は、喜びと反対の両面の思いで主の御心を求めて祈りました。せっかく芽生え出したカンボジア人による自立教会の建設にどう影響するか、現実にはドルを

後ろ盾に戻ってくる同邦の宣教師、片や貧しい現地伝道者方の思いはいかに?等々を考慮しつつ、主の御心をと祈っておりますが、最終決定でWGMが彼らを宣教師として受理し、派遣宣教師とされた決定通知が来た時、現地の「働き人不足」という現状に主の御手が動かされた事と心に喜びと感謝が広がりました。

実際の働きの開始は2017年5月からの予定で今支援者を募る活動に入りました。でももうIGMの宣教師は不要では、という安易な考えに捉われず、むしろIGMからも主の働きに「遠く広き国を見る」宣教の主と同じ霊に燃えた魂が興され、後継者として参戦するべく立ち上がる人材を興して下さるよう祈っています。共にお祈りを宜しく! ■



カンボジア宣教師に派遣決定がなされたテトス牧師ご夫妻



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2015年12月6日

心臓外科週のためお祈りありがとうございました。最初の患者さんになるはずだった方が天に帰られ、続く10人以上の患者さんは特に合併症も見られず順調に回復されました。

実は、全てがベストでも緊張を伴う心臓外科週の前なのに、病院の洗濯機が壊れ、酸素製造機が煙を吹いて壊れ、水力発電施設も壊れて停電が頻発、滅菌機も壊れ、滅菌機や乾燥機や調理にも必要な蒸気の設備も壊れとまるでよくできた喜劇の脚本を見ているような事態でした。他にも、今年卒業予定の看護学生たちの国家試験の結果発表が延期となったことが伏線となり、スタッフの人員確保がいつも以上に困難になりました。

それでも、米国からのチームの到着日は、フランスで一斉テロがあった日と同日でしたが、全員無事に守られて到着。機械や設備の一つ一つが多くの犠牲と祈りの結果修復されました。最後の土日の

人員は、金曜日の午後遅くに確保。小さき者も、風邪と一緒でしたが、徹夜・半徹夜の日も含めて、守られ、感謝でした。お祈り頂き、本当にありがとうございました。

2000年赴任当時、献品倉庫の主任だったA兄が、だいぶ前に交通事故に遭い、ひどい頭部外傷を受けました。第一報では命が危ぶまれるような状態でしたが、テヌウェク病院で緊急手術を受け、準集中治療室で長い間過ごしました。彼の奇跡的な回復に、折ある毎に御名が崇められ、皆が励ましを受けています。巡回中にお分かったテヌウェク病院の歴史ビデオにも登場したウェッソン御夫妻が1か月近く訪問してくださいました。とても大きな恵みでした。奥様ともども、もっと頂きたいと惜しまれながらのお見送りでした。

今週はAGCのバスターズ・カンファレンス(年会)があり、ザンビアのカレンボ先生も講師の一人だったので、直接はお目にかかれず残念でした。夜の聖会はWGMのハリマン総理が説教者で幸いでした。

短期ボランティアの方々、昼食当番も継続中です。日本からの食材で、同じ素材でもバラエティーのある献立となり、ゲストの方々も毎回楽しみにしてください。私たちからも感謝とよろしくを日本の教会の方々にお伝えください」とあるゲストの方から頼まれましたので、ここに記させていただきます。■



BOLIVIA

ボリビア

三森邦夫・加寿子*2015年12月4日

10月17日の土曜日から始まったリーダー・トレーニングクラスが、11月も毎土曜日の夕方持たれ、教会の中心的な営みとして順調に進んでいきます。初めは主の働きに直接献身している二組の夫婦を対象に計画したクラスでしたが、自分の家でもグループを持ちたい、そのために訓練してほしいとの要望が高まり、結局14人のレギュラーメンバーで、クラスが続けられています。この中にはすでに神学部で学んでいる兄弟も含まれていますが、基礎的な聖書の知識と、救い・聖潔の実践などに重点を置いていきます。

ボリビアでは10代で未婚の母になることは珍しいことではありませんが、教会に時々来ていた16歳の女の子(D)が去年妊娠し、今年の1月に男児を出産しました。父親(J)は近くに住む20歳になる大学生でした。珍しいことではないと言え、両方の家族に大きな問題を引き起こし、落ち着くまで

大変な中を通ったようでした。長い間教会にも出て来なかったDが、訪問団が来ていた時のコトカ市での野外礼拝にふらっと現れました。その時に出産後初めて会って、詳しい状況を聞くことができました。両方の家庭が争いの絶えない環境で、そこからの逃避もあったようでした。若い二人のこれからの生き方に、助言を求めていることが分かり、まずJに会って見ることにしました。10月2日緊張した面持ちのJがセンターに来ましたが、思いがけなく、悔い改めのお祈りにまで導くことができました。未成年の女の子に自分がしたことを深く悔いているのと、神様に対して罪を犯したことを自覚しているのが分かりました。その後、Dは高校生最後のコースを全うし卒業をまじかに控えています。またJも、仕事と大学での学びをしながら、10か月になるベビーの面倒をよく見ているようです。二人はそれぞれの親の家に住んでいますが、この日曜日、親子3人で初めて礼拝に来ることができました。2人とも人間的にも成長して良い家庭を築いて欲しいと願われます。そのために若くして母親になったDも救われて結婚にまでこぎつけるように祈っています。

このようなことはほんの一例で、ボリビアでは、未婚の母を続けるか、一緒に住んでも正式な(法律上の)結婚はしないケースが多いのです。理由は、昔から離婚再

婚が繰り返されてきたこと、離婚には大金が必要で、また裁判がなかなか簡単ではないことなどと言われています。実際2年ほど前から教会に始めていて、主人が金融関係に勤めている30代なかばの夫婦がいますが、13歳を頭に4人子供がいるのに、正式な結婚はしていません。この夫婦も去年の6月に信仰を持ちました。彼らに実際聖書が教えている結婚、家庭生活、それぞれの責任などを教えることも教会の大切な役目だと思います。

私たちの教会に集まっている人たちのそれぞれのライフ・ヒストリーを考えるとボリビアと言う国の縮図を見ているような気がします。このような社会で蒔かれた福音の種がどのように芽を出し成長していくのか、やがて天の御国で思いもかけない素晴らしい再会があるのではと夢見ています。



■会計報告11月分
宣教献金 一、一九六、三九三元
月平均 一、四三一、三〇五円
.....

お祈りの課題

香港(鹿島)

- ◆ 新年度のみ言葉に立って一人ひとりが前進していけますように
- ◆ 求道者が起こされ、救いに導かれますように
- ◆ 1月31日の第6回目の教会総会が守られますように

ケニア(鳥田就子)

- ◆ 心臓外科の週が守られた感謝
- ◆ 無期限で結果発表を待っている看護学生たちのため
- ◆ 正しい福音の伝達のために病院が用いられたAGCが異端から守られるように
- ◆ 台湾(平瀬)
- ◆ 個別の信仰入門クラスが祝され、守られますように

台南(蔡さん、陳さん、呉さん、台中のCさん、Mくんのため、引き続きお祈りください)

- ◆ 台湾の政治や治安、経済のみ守りのため。年明け、1月に総統選挙があります
- ◆ 家族の健康と生活のみ守りのため。明里の高校受験のため

ボリビア(三森)

- ◆ リーダー・トレーニングのクラスに来ていた人たちが最後まで続くように
- ◆ ボリビアのプロテスタント教会のためと宣教と信仰の自由がたもたれるように

- ◆ 私たちの霊肉の健康と今後の働きのために
- ◆ ファイリピン(豊田)
- ◆ ファイリピン神学校の学びのため(1月~2月)。
- ◆ 来年3月から始まる第三期ファイリピン宣教準備のため(3月9日出発予定)。
- ◆ 日本で留守を守る恭子と3人の子どもたちため
- ◆ カンボジア(鳥田縁乃)
- ◆ テトス宣教師御一家の必要な支援者が与えられて無事派遣がみられるように

- ◆ カンボジア全土に広がりがつつある救いと聖潔の福音が聖霊の力により確立するように
- ◆ 鳥田の腰痛と歩行力の回復と共に次の働きを担う後継者のため

- ◆ ザンビア(富澤)
- ◆ 宣教師館プロジェクトのため
- ◆ プロジェクトの助けを頂いている友人が守られますように
- ◆ ヘルニアからの回復のため。

- ◆ ザンビア(根廻)
- ◆ 巡回が守られ、恵まれていることへの感謝
- ◆ 残る巡回、奉仕のため

- ◆ 東京国際教会(鳥田康毅・由理)
- ◆ 1月1~2日の冬の修養会(講師 康来昌牧師)が祝されるように
- ◆ 4月に着任予定の諸長案牧師夫妻の準備、ビザの手続きが守られるように
- ◆ 新執事が加えられる聖平会が一致し、良き協力関係が築けるように

聖宣神学院報



Immanuel
Bible
Training
College

「初めに」に生きる

院長 ● 河村 從彦

「初めに」(創世記1・1)

ここで言われている「初めに」は、他の何ものよりも前に、つまり「昔々あるところに」というような時間的な意味ではなく、この宇宙のあらゆるもの・空間・時間を越えて存在しておられる神さまが、わたしたちが生きているこの世界の根底となる枠を作ってくださったというニュアンスです。わたしたちが目にする世界も、そして自分の人生も、この「初めに」によって支えられているのです。

一つの区切りを迎え、自分の信仰の歩みは本当に「初めに」なのかを思いめぐらしました。自分がかんばって、自分で自分を支えて行かなければならない人生なのかあるいは神さまが、大きな受け皿のように、自分に関係するあらゆることの根底におられ、神さまが私の枠となっていてくださる人生なのか、また、これからもういこう生き方をして行けるのか。渦中にいると分からないのですが、振り返ってみれば、自分の思いをいたく越えて、神さまは生涯の枠であり続けてくださっているという感じがします。本当にありがたいことです。「神さまは裏切らない」。ことばでは言いますが、私にとっ

てもおそらくそういう事なのでしよう。自分の人生を自分でどうにかしたかった時間は、この「初めに」が見えなくなっていた時間なのかもしれません。

神さまはその「初めに」に、徐々にいろいろなことを書き込んでくださる方です。もちろんたとえとしてですが、創造のみわざによって、何もなかったところに自然界や道徳というというシステムを組み込まれたように、わたしたちの生涯にも、神さまがおられなければありえない恵みの足跡が刻まれているはずで。

まだ何も描かれていない一年を展望しながら、ここでもう一度、自分にとっての「初めに」を確認しておきたいと思えます。信仰とは、「初めに」のシンブルさに生きるということなのでしょう。



田中進先生特別講義「教会管理特論」

聖宣神学院

入学案内

この春、入学審査受験を希望される方は、以下を読み、間違いないように手続きを行ってください。

- ◆ 出願資格、コースは、パンフレットやHPで確認してください。
- ◆ 出願書類 以下の書式一式を神学院宛請求してください。

- 一、所属教会牧師推薦書 一通

- 二、教会信徒推薦書 一通

- 三、入学願書 一通

- 四、健康診断書 一通

- 五、戸籍謄本 一通

- 六、自筆履歴書(市販書式) 一通

- 七、写真(履歴書に貼り付けたものの他にもう一枚) 計二枚

- 八、最終学歴の学校の卒業証明書(本年見込みの者は、それに代わる書類) 一通

- 九、最終学歴の学校の成績証明書(本年見込みの者は、それに代わる書類) 一通

- 十、新生の証し(A4用紙横書き、長さは自由) 一通

- 十一、召命の証し(A4用紙横書き、長さは自由) 一通

- ◆ 出願方法

志願者は出願書類の三〜十一をそろえて所属教会の牧師に提出してください。所属教会の牧師は一の所属教会牧師推薦書と二の教会信徒推薦書を加えて封筒に封入

し、簡易書留でご送付ください。

◆ 出願期限 2016年2月22日(月)必着

◆ 審査日程 2016年3月7日(月)

◆ 審査会場 聖宣神学院

◆ 検定料 いただいております。

◆ 審査科目 書類審査、筆記試験(聖書、一般)、面接

◆ 合格発表 一週間以内に受験者宛に郵送で通知します。

◆ その他の注意事項

▽所属教会の牧師と相談して出願してください。教会の承認を得て送り出されることは大切です。

▽試験日には、普段使用している聖書を持参してください。

▽主の召命の意味を心に留め、真実な教会生活を心がけてください。

▽入学後の経済について所属教会牧師と話し合っておいてください。面接でお尋ねする場合があります。

▽イムヌエル教会出身の方は、『イムヌエルの六十年』などを読み、教団の歴史と信仰について学んでおいてください。

▽神学生納入金は、入寮生は月額3万円程度です。聴講生は科目数で受講料が決まります。その他、書籍代、交通費、食費など生活に必要な経費がかかります。入学金はありません。経済的な理由で学びが困難と思われる学生のためには奨学金制度(貸与)があります。

◆学びを締め括るにあたり

主の励ましに支えられ

シニアコース2年 橋本千尋

70歳での入学となり、「大丈夫か」という声がありました。当時(2年前)は気力・体力共に元気とはいえ、午後の2限目の授業が終わると辛い疲労感が生じ、特に暗記力は全く駄目で、元々の能力と共に、年齢を否応なく感じさせられたものでした。

一方で、信徒としての年数は50余年を超えているものですから、問題意識の塊みたいな者です。寛大な先生方に、遠慮なくこれらをおつけさせてもらいました。

インターン実習で、一つの教会を担当しますと、教室での学びとは違った風景の世界になります。説教においても、演習とは、思いもよらないほどの違いを感じました。しかしその時は、最初の召命時に立ち返ります。

①イエス様ご自分のことを「このように紹介してほしい」と願っておられるように証し、②「このようなことを語ってほしい」と思っておられることを察知して説き明し、③聖書が書かれた当時に意味していた内容と、聞いた人々がどのよ

うに受け取ったかを再現し、④その世界(現場)に聴き手に立ち合ってもらおうかのように誘い、⑤信徒の方々が困惑する聖書の読み解きの困難さに付き合っていくように説教を準備すること、

などが自分に課せられている使命であると思っております。そして主は「しかしわたしは、あなたの信仰がなくなるならいようにあなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」とのルカ二・32の御言葉を通して励まして下さいます。これからも何よりも失敗生が大好きなイエス様に「泣き」を入れながら、より頼んでまいります。

◆学びを締め括るにあたり

地の塩、世の光として

短期コース2年 大島あや子

過日、修了認定をいただき、2年間の学びを修了できますことを感謝いたします。

神学院で若い方々と肩を並べて学んだことは新しい風を感じながらの、楽しく、貴重な時でした。日々を重ねるうちに自分の能力、体力、健康等の限界を弁え知り、このままで神様に無条件に愛されている自分を知らされてきま

した。

「仕えること」とはと入学式で大きな宿題が出されました。私にとって、「仕えること」は「神様の愛に徹底して生きること」です。これは故相原聖子先生が宇都宮教会でお証しなさった時の言葉です。これまでも繰り返し、心に温めてきました。とかく内向きになりがちな私には、チャレンジになる言葉でした。イエス様は私たちを「地の塩」「世の光」(マタイ五・13、14)と言われました。

「きょうの祈り」で「塩は自分を溶かして味付けをし、光は自分を燃やして回りを明るくする」と教えられました。「仕える」ことは自分を「溶かして」「燃やして」周りを生かすこと、それが神様の愛に徹底して生きることと教えられました。すぐに相手の立場に立つこと、時間をかけて理解するこ

と、日常生活の中の小さなことに心を込めて、できるようにお仕えるものでありたいと思います。以前の勤務先の小学校では学校名のついた漬物がありました。PTA文化祭では好評でよく売れました。

自分もあんばいよく地の塩として生かされていき、美味しい漬物となり提供できるようにになりたいものです。小さな灯でも周囲を明るくできたらと思います。

2年間、熱心に指導して下さった先生方、祈りとサポートをしてくださった母教会をはじめ全国教会の先生方、兄弟姉妹方に心から感謝申し上げます。

◆学びを締め括るにあたり

土の器の中に

短期コース2年 館 和人

「私たちは、この宝を、土の器の中に入れていくのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。」(IIコリント四・7)

間もなく2年間の学びを終えるべく、後期の授業の半ばで奮闘中です。まさしく「光陰矢の如し」のように時は過ぎ、今は「帰心矢

の如し」のような心境です。2年は脱兎の如くに過ぎました。新人生として新鮮な、期待を込めた、ある意味で不安の中で寮生活も始めましたし、あらゆるものがこれまでと違った環境でした。

パウロは苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒されたが、窮せず、行きづまらず、見捨てられず、滅びなかつたといっています。かつては書道を生業とし、「迦南」という雅号と共に「土の器」と刻した「印」(書道用の印鑑)を使用していました。迦南はカナンの地から名付けたものです。

「あなたがたが私たちの奉仕によるキリストの手紙であり、墨によつてではなく、生ける神の御霊によつて書かれ」(IIコリント三・3)とありますが、これからは墨によるのでなく御霊によつて書かれたキリストの手紙としていたなければなりません。キリストの手紙は推薦状であると書かれています。

土の器は、死ぬべき肉体だとも書かれています。これからの奉仕のことを考えますとき、自分がどんなに壊れやすい、やわな土の器であるかを思い知らされている毎日でもあります。

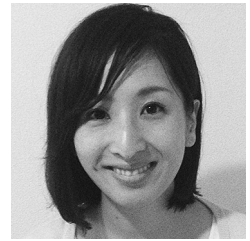
「主イエスをよみがえらせた方が、私たちもイエスとともによみがえらせ、あなたがたといっしょに御前にたたせてくださる」(IIコリント四・14)との信仰によつて、イエスのいのちが明らかにされることを願うものです。



食堂ボランティアスタッフ 菅野姉と館姉

私の神学生時代 主ご自身に迎えられて

中目黒教会 ● 館野真貴子



献身の思いを与えられ、気がつけば神学院の門をくぐっていたあの日。何も知らなかったからこそ飛び込むことができたのかもしれない。それも神さまの大きな計らいの一つだったと思います。毎日が驚きと、感動と、……あらゆるものの入り交じった、濃厚で不思議な4年間でした。

どんな方々と共に生活をするのか、考え祈る余裕もないまま入学した者でしたが、個性豊かな同期生をはじめ、素晴らしい先輩後輩方に恵まれたことは、大きな主の憐れみでした。学びと訓練の中で、共に泣き、笑い、祈りによって支え合うことができる方々との出会いは、今でも私にとって大きな財産となっています。

また、日々祈りと忍耐をもって真実に向き合ってくださいました先生方には、感謝に堪えません。クラス、チャペル、早天、晚祷、合同祈禱会等を通して、御言葉の恵みをシャワーのように浴びていました。そのように学びと訓練に集中した環境に置かれていた分、自らに当てられる光も強く、その度に

主の前に出ては涙し、新たに立ち上がらせて頂くという貴重な体験たくさんさせて頂きました。

入学式の日、祝辞を述べてくださった先生が、ガラテヤ二章20節「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。」この御言葉と共に、「死ぬべき自分とは?」「キリストにあつて生きる自分とは?」4年間じっくり考えてくるようにと、宿題を出してくださいました。事ある毎にそれを思い出し、自分に死ぬことと同時に、キリストにあつて生きることに、主がデザインして下さった自分らしくお仕えるということからは、具体的にどういうことなのか……と、様々な場面で考えさせられ、葛藤したように思います。4年経ち、この問いにはつきりと応えられたかと言えば、正直わからない部分も残っています。しかし、主は歩みの遅い者をさとし、ここまで導いて下さいました。この宿題に関して、今では一生かけて考え続けるべき問いの一つとして、味わいつつ祈らされております。

何も知らないで飛び込んだ世界でしたが、その先には何も無い暗闇ではなく、温かい愛そのものである主ご自身が迎えて下さいました。御名を崇めて感謝します。これからも、主の恵みを分かち合う者として変えられ続けながら、主が召して下さる道を、喜び歩む者でありたいと願っています。

同窓生の近況

36期生

高槻教会 ● 双森真智子



卒業後、豊中4年、高槻で24年目の奉仕です。伝道者として今ありますのは、主の憐みと背後の尊いお祈りと御指導、御愛の故と感謝しております。

現在の地に8年前、奇跡的に新会堂が与えられ、主のご真実に聖名を崇めました。主は絶えず、小さな群れに目を留め良くして下さいます。今日まで様々なご訓練を頂きましたが、主は聖霊の助けを与え、最善に導き、益と変えて下さいました。信徒方も困難な戦いの中、信仰を守り乗り越えておられる姿に励まされます。昨年は地元から救われる魂が興され、大きな喜びでした。更に御霊の一致のもとひとりの魂の救いを目指して、教会建設に励みたいと思います。

家族で沖繩から神学院に入学し幼かった娘たちも、今は助け手となっています。主はお約束に忠実なお方で、献身に反対していた家族にも救いの御業がなされ、感謝しております。今後とも聖霊に依り頼みつつ、主人と共に、互いの欠けを補い合い、召しの道を全うさせて頂きたいと願っております。

神学院スタッフ…恵みの想起

基礎を身に付けるために

図書館補佐 小林 佳

私自身神学生の時に、クラスの課題で様々な本を読みました。その中でもよく覚えていたのが、ロイド・ジョンズの『説教と説教者』(いのちのこば社)でした。この本は、説教のテクニカルなことより、「そもそも説教とは、説教者とは何か」といった基本的な内容が記されています。最初は課題図書だから読もう、という単純な思いで手にしましたが、実際に読んでみると実に奥深く、説教と説教者のイロハが詳細に記されていました。私の中でいわゆる「定本」となりました。そのように図書館には、基礎的な学びをするための本がたくさん取められています。神学生時代に是非これらの図書に触れて基礎を身に付けていただきたいと願っています。

学苑だより



● 明けましておめでとうございませう。昨年のお祈り・ご支援に心から感謝致します。本年もよろしくお祈り致します。

● 年末のBTCリトリートを恵みのうちに終えることができました。賑やかだったキャンパスにも静けさが戻っています。

● 今の神学院は、入寮生・通学生いろいろで、休講期間はそれぞれで過ごします。12日(火)の授業再開まで、調整の期間となります。

● 休講期間中も教会実習は続きます。クリスマスとさまざまな行事や元日礼拝で神学生を受け入れてくださった教会もありました。感謝致します。

● 年度の終了・卒業式に向けて、学びもあと二か月を残すのみとなりました。一月は卒業に向けた総務局長の特別講義もあります。

● 1月の神学院祈り会は、5日(火)・午後6時からです。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。11月の会計報告をさせていただきます。

11月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥632,575
教会団体による「神学院献金」
¥455,685
合計 ¥1,088,260

その他の献金 (一時・特別)
¥175,450

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

恭賀新年

「見よ。やみが地をおおい、暗やみが諸国の民をおおっている。しかし、あなたの上には主が輝き、その栄光があなたの上に現れる。国々はあなたの光のうちに歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。」

(イザヤ書60章2〜3節)

2016年の年頭、現代もやみがこの世を覆う中であって、主の栄光が私たちの群れ全体と各個人に力強く現され、あらゆる問題、課題を乗り越えて前進するために必要な希望と力が注がれますように。各教会の新しい年の歩み出しに、主の導きと臨在と祝福が豊かでありまますように。

〈新年聖念〉

各地域・各教会では、年頭に新年聖念が予定されています。共に主の御前に出て、霊的・信仰的な装備を整える時をもちましよう。

■本部

▽本教団に属するすべての教会は、条例第81条の定めに従い、1月中旬に新年度の「教会総会」を開催します。教会員は、所属教会の総会(昨年度教・財務報告や承認、新年度の活動方針発表などがなされます)にご出席ください。また、各教会は年会資料となる「年報」を1月19日までに本部宛の提出を

お願いいたします。

▽本年3月の年会における牧師の転任が内定している教会に対して、その旨の内示がなされました。教会総会もそれを前提に実施されます。後任牧師は発表されていますが、牧師の交替にあつて霊的整えがなされ、教会が守られ、さらに成長していくことができますように、お祈りください。

〈会議〉

26日(火) 財務委員会

(決算書検討)

〈第71次年会の日程〉

本年3月8日(火)夕〜10日(木)

午前までの開催となります。伝道者諸師と共に、信徒の方々のご参加をお待ちしています。

■総務局

2016年度の教団主要行事予定表を、昨年12月に配布致しましたが、変更や修正がございましたら、1月19日までに本部総務局(担当・佐藤信行)までお知らせください。

なお、第71次年会資料作成のため、各局・委員会・教区宛に、報告原稿をお願いしますが、締切は1月25日となっております。今度も年会資料の事前送付を考えておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

〈財務委員会〉

昨年の責任役員会において、2016年度の教団予算案が審議され承認されました。昨年度の本部費等(融資返済を含む)本部振替送金は、会計整理の都合上、1

月15日までに手配をお願いいたします。

〈教団四献金について〉

今年も宣教活動推進のために、各教会で以下の諸献金へのご参加をアピールして頂ければ幸いです。

◆国内宣教献金

◆世界宣教献金

◆神学院サポート献金

◆厚生資金献金

◆国内教局局

〈役員・リーダー研修会〉

11日(月) 静岡教区

▽世界宣教局

▽帰国報告中の豊田常喜宣教師は、1月5日(火)から2月24日(水)にかけて、フィリピンのA P N T Sで学びをされ、その後、ご家族とともに3月9日(水)にフィリピンに再赴任の予定です。今期はロサリスを拠点に活動される予定です。お祈りください。

▽昨年末に世界宣教局より「2016年台湾宣教訪問団」の募集案内を各教会にお送りしました。要綱をご覧ください。教区・教会・家族単位での随時参加や、世界宣教局主催時にも奮ってご参加ください。

〈IWF関係〉

▽各教会にIWF宣教師(ウェスレアン・WGM)を招聘する際に、費用補助を必要とする教会は、IWF会計より支援が可能です(上限4万円)。詳しくはIWF書記の梅田登志枝師までお問い合わせください。

▽神学院祈り会のご案内

1月5日(火)午後6時〜7時

本部会議室で行います。午後6時からになりました。お間違いないようにお集まりください。

▽今月号より、教報のPDF版が発売(一部100円)されました(詳細はチラシをご覧ください)。

◆出版事業部

◆国内教局局

今年も8月9日(火)から12日(金)にかけて、全国中高生「とにキャン」が開催されます。会場は聖山高原キャンプ場です。今からぜひともお祈りとご協力をお願いします。そして、各教会から参加者をお送りくださいますようお願いいたします。

▽入学審査日は3月7日(月)、願書提出期限は2月22日(月)必着です。受験を考えておられる方は、出願書類一式を請求してください。本誌掲載の「聖霊神学院入学案内」をあわせて読み、間違いないようには手続きを行ってください。

▽教報12月号4頁に掲載した佐竹静師の追憶記事の召天日に誤りがありました。正しくは10月19日です。お詫びとともに訂正致します。

▽元勸士・信徒伝道者の潮満(元古屋教会員)が、昨年11月23日(月)、85年の地上生涯を終えて天に凱旋されました。ご遺族と教会に主の平安をお祈りください。

■教育局

〈ユースステーション関係〉

今年も8月15日(月)から18日(木)にかけて、第5回ユース・ステーション全国大会が開催されます。会場は奥多摩福音の家、講師は小坂嘉嗣師(日本宣教会・狭山キリスト教会牧師)です。青年たちが主体となって進められる準備のために、お祈りとご協力をお願いいたします。

〈とにキャン関係〉

今年も8月9日(火)から12日(金)にかけて、全国中高生「とにキャン」が開催されます。会場は聖山高原キャンプ場です。今からぜひともお祈りとご協力をお願いします。そして、各教会から参加者をお送りくださいますようお願いいたします。

▽入学審査日は3月7日(月)、願書提出期限は2月22日(月)必着です。受験を考えておられる方は、出願書類一式を請求してください。本誌掲載の「聖霊神学院入学案内」をあわせて読み、間違いないようには手続きを行ってください。

▽教報12月号4頁に掲載した佐竹静師の追憶記事の召天日に誤りがありました。正しくは10月19日です。お詫びとともに訂正致します。

▽元勸士・信徒伝道者の潮満(元古屋教会員)が、昨年11月23日(月)、85年の地上生涯を終えて天に凱旋されました。ご遺族と教会に主の平安をお祈りください。

▽高桑信雄師(富山教会)のお母様、高桑春枝師(金沢教会員)は、昨年12月3日(木)に召されなされました(97歳)。ご遺族に慰めをお祈りください。

消息報告



ご希望の方は各教会牧師、または担当者までお申込みください。ダウンロード用のパスワードを発行いたします。

第71次年会 スケジュール (3月8日~10日)

	8日(火)	9日(水)	10日(木)
午前	研修 ①聖なる教会を日ざして ②危機対応 ③交わりの神学	研修 ①聖なる教会を日ざして ②危機対応 ③交わりの神学	聖会Ⅱ 教職按手式 任命式 転任事務 教区主事会議
午後	4時 受付 5時 必着	議事会	
夜	聖会Ⅰ 献児式	聖会Ⅱ	

会場・国立女性教育会館「又エック」
集会はすべてオープンですので、信徒の方もぜひご参加ください。

*年会準備祈禱会 2月1日(月)午後2時/OCC508会議室